

図書館員のひみつの本棚 第122回

今月はケルトの神話・伝説『マビノーギオン』を土台としたファンタジー作品です。

『ふくろう模様の皿』

アラン・ガーナー／作 神宮 輝夫／訳 評論社 1972年 1944円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生★☆☆
高校★★★ 一般★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

イギリス、北ウェールズ地方の谷間にある古い屋敷に住む少女アリスンは、ある日、屋敷のクックの息子グウィンと屋根裏にあった大量の皿を見つける。グウィンは気がつかなかったが、アリスンにはその皿の模様がふくろうに見え、どうしてもその模様を写し取りたくなる。夢中でふくろうの模様を皿から紙に写し取り、紙のふくろうを作り続けるアリスンをみて、グウィンと、アリスンの義兄となり屋敷にやってきていたロジャーは、その皿の正体を突き止めようとするが、彼らは知らず知らずにウェールズの神話・伝説の悲劇を現代に体現しようとしているのだった。

<子どもに手渡す時のポイント>

日本ではあまり馴染みのない神話・伝説『マビノーギオン』を土台とした物語ですが、描かれているのは若者たちの普遍的な人間ドラマです。愛、誤解、無理解、そういった感情をまだ自分で処理できない若者の葛藤や過ちを、神話を土台としたファンタジーで表現したこの作品は、イギリスで優れた児童文学に贈られる、カーネギー賞とガーディアン賞の二つの賞を受賞しています。ただ、好き嫌いが分かれる作品かもしれないので、ご自分で一度読んでから、この子ならきっとこの物語が好きだろう！と思う子に手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか